

製品名: MN1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14006**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	135kDa

抗原情報

遺伝子名	MN1
別名	MN1; Probable tumor suppressor protein MN1
遺伝子 ID	4330.0
SwissProt ID	Q10571
免疫原	抗血清はヒト MN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 821-870

背景

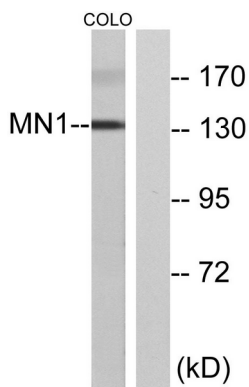
髄膜腫 1 (MN1) は 2 セットの CAG リピートを含みます。髄膜腫では均衡転座 (4;22) によって MN1 が阻害され、その不活性化が髄膜腫 32 の病態形成に寄与する可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],疾患: MN1 に関連する染色体異常は、急性骨髄性

白血病 (AML) の原因となる可能性があります。TEL との転座 t(12;22)(p13;q11)。疾患: MN1 の欠陥は、脳と脊髄の柔らかい覆いである軟髄膜のくも膜帽細胞から発生する、ゆっくりと増殖する良性腫瘍である髄膜腫の原因となる可能性があります。髄膜腫は、ヒトの中枢神経系における最も一般的な原発性腫瘍であると考えられています。機能: 腫瘍抑制に関与している可能性があります。組織特異性: 普遍的に発現しています。骨格筋に最も多く存在します。、

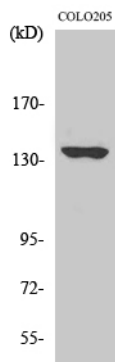
研究分野

-

画像データ



MN1 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した MN1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析